

「朝ドラ」への夢

こんなドラマチックな人生を全うしたすごい女性がいたのか!

水島あやめ氏(本名 高野千年、当市大月出身)のことを恥ずかしながら市長になるまで知りませんでした。その存在を知り今や「ぜひ、NHK朝の連続ドラマのヒロインに」と思いはせるようになったのは、研究第一人者の因幡純雄氏が『水島あやめの生涯』(2019年10月、銀の鈴社出版)を世に送り出されたおかげと、長年に渡り顕彰活動が続いている「ちとせ会」メンバーの情熱に心打たれたためでした。今年の9月には市民会館で、水島あやめの作品上映会と、因幡氏による講演会が開催されました。

わが国初の女性映画脚本家として、大正から昭和初期に東京の松竹鎌田撮影所で大活躍。関東大震災で打ちひしがれた民衆が、救いを求めるように集った映画館で、彼女の才能はまさに花開きました。後に、幼いころからの夢だった少女文学の世界に。たちまち人気作家となり、伝記や外国文学の翻訳

も手がけ、あの『小公女』や『キューリー夫人』、『アルプスの少女』も世に広める。

その人生は実に奥深い。少女時代のつらい経験や多感な学生時代、かつての旧習・家制度による家人との確執。前半生と打って変わった実母の介護に専念する姿や、最愛の母をおくった後の穏やかな晩年の生き方なども胸を打つ。

前述のように、市民有志と「水島あやめをNHK朝ドラに推進する会」を結成して2年前から要望活動などを展開してはいますが、その先導者である今成卓而さん(元六日町教育長)は「働く女性のバイオニアのような存在。多くの女性の共感を得られるはず」と語っています。まさにその通り!

わが家の女性陣は、「朝ドラ」が生活の一部。毎日の放送を、まずは衛星放送で視聴し、次は地デジで再視聴。当然、お昼の再放送も。もしドラマが実現して、彼女が最期まで思っていた故郷の金城山や四季が映し出されたとなれば、さらに録画が加わるな、きつと。「天地人」から12年、何か巡ってこないか。

シリーズ 第102回

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~boast of my country~

ベトナム社会主義共和国 ブイ ティ ハウさん



私の国はこんなところ

ベトナムは4,000年以上の歴史があり、54の民族からなる多民族国家です。国土はS字形で、北部、中部、南部の3地域に分けられます。北部に首都ハノイ市、南部に最大都市ホーチミン市があります。旧正月の「テト」は1年で最も重要な国民の祝日で、もち米の料理パンションで祝います。そのほかの国民食は、フォー、パン、春巻きなどがあります。伝統衣装はアオザイです。観光地は北部のハロン湾、中部の旧市街ホイアン、南部のビーチリゾート地ニャチャンなどが有名です。



南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼は空気が新鮮で、人々は友好的でここに来てよかったと心から思います。自然と調和したとても恵まれた街だと感じながら、毎日を過ごしてきました。おいしいお米、スイカ、お酒と日本料理を堪能したことも決して忘れません。南魚沼が大好きです。

編集後記

秋の訪れを感じるようになりました。夕陽を受けた黄金色の稲穂が輝く、美しい田園風景が市内に広がっています。

ふるさと納税の返礼品でも、多くの方から「南魚沼産コシヒカリ」を選んでいただいております。昨年度の寄付額を大きく上回って推移しています。ステイホームが続く中、新米が食べられる日が楽しみです。(K.M)

今月の表紙

9月14日(火)、八色の森公園のぶどう畑で、八幡保育園の園児たちがブドウのもぎ取りを体験し、ずっしりと重いブドウを手にとれしそうな笑顔を見せていました。公園で栗を拾ったり、植物や昆虫を見つれたり、秋ならではの自然との触れ合いを楽しみました。

市民の動き 令和3年8月末日現在 ()は対前月比

○人口 54,645人(-58人) / 男 26,751人(-28) 女 27,894人(-30) ○世帯数 19,981戸(-27)